

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894000088		
法人名	株式会社 サザンツリー		
事業所名	グループホーム サザンツリー (西ユニット)		
所在地	兵庫県姫路市飾西330番地		
自己評価作成日	平成24年1月24日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2894000088&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人がその人らしく暮らせるホーム」を基本理念とし、入居者本位のケア提供に努めている。家庭的な雰囲気の中で、料理や洗濯などの家事を持続し、入居者の残存能力を最大限に引き出すようにしている。東ユニットでは、散歩、歌など動きのあるレクを日課とし、楽しみながら心身の活性化と健康維持ができるようにしている。西ユニットでは、個性的な入居者の感性に寄り添うケアを考えながら、日々の生活を大切に、笑顔のある暮らしの支援をしている。家族からはホームについて、「笑い声が聞こえる」「いつも清潔だ」「料理が美味しそうだ」などの評価をいただいている。スタッフはセンター方式を活用しながら話し合いを重ね、入居者の状態を把握し、チームケアに取り組んでいる。地域の医療機関や他施設との連携を強め、各方面から入居者、家族の安心できる暮らしを支援をしている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域とともに生きる」を理念のひとつに掲げている。スタッフは毎日の朝礼で理念の唱和を欠かさず行い、意識付けを行うことで、現状改善に努め、年々地域交流の機会を増やしている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の住宅街を毎日散歩しており、出会う住民と挨拶をしたり、自家製の野菜や果物をいただくなどの交流がある。自治会の催事への参加や地域の高齢者サークル「なごみの会」との交流頻度も増えている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症見守り隊員を受け入れて、入居者の現状を知っていただく機会を設けている。地域住民に向けては、道沿いに設置した掲示板にホームのイベントを告知するなどして、交流のきっかけ作りをしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度開催。定期的に参加メンバーの交代も行いながら、認知症の現状やホームの取組み状況を報告し意見を求め、サービス向上に努めている。参加メンバーが所属する包括支援センターとの連携も強まっている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	姫路市の介護保険課主催の集会に積極的に参加するほか、ホーム便りを送付し、ホームの活動内容や入居者の様子を把握していただくよう努めている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	これまでに直接的な身体拘束が行われたことはない。門扉の施錠については、安全確保を優先するため、家族の希望や同意を得ており、施錠されていることで家族がより安心できるのが実情である。入居者には毎日の散歩や定期的な外出により開放感を感じていただけるよう努めている。		
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「尊厳のある生活」を理念のひとつに掲げており、虐待が行われたことはない。定位的に内部研修を実施し、スタッフへの意識付けを行い、虐待が起きないように防止に努めている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の受講や、内部研修の実施によりスタッフが理解を深め、家族支援に役立てられるよう努めている。現在ホームに住所を移したり、成年後見制度を利用している入居者もいるほか、提案をした事例もある。		
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項等の説明に十分な時間をとり、納得していただいている。料金等改定の際には、書面による通知にて詳細を説明し、納得いただくようにしている。		
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からケアマネや管理者が、入居者や家族とこまめに接して現状を把握し相談に応じるなどして、ケアプランに活かしている。ホーム独自のアンケートを家族に実施したり交流会を開催し、意見や要望を広く収集し、運営に反映している。		
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者及びスタッフ全員が出席するスタッフ会議を月1回実施し、問題解決や改善提案の場としている。管理者は、日常的にスタッフに企画立案を勧めたり意見を聞き取り、運営に反映するよう心がけている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	毎日の会話や定期的な面談を通じてスタッフの意見を聞き取り、職場環境や労働条件の改善に取り入れている。会社独自の自己評価システムを導入し、スタッフの能力や実績を公平に評価することで、スタッフが自己を見つめ直し、やる気を引き出すよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤続年数や経験、適性にに応じて外部研修を受講させている。月1回の内部研修では様々なトピックを取り上げるほか、センター方式によるケアプラン実施状況を担当者が発表するなど、プロの介護者としての知識やスキルを身につけられるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姫路市のグループホーム連絡協議会に出席し、他ホームとの情報交換、相互理解に努めている。協議会の議題も回を重ねるごとに深まってきており、各スタッフが順次出席するようにしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現在の生活の様子や要望などをお聞きし、安心して入居いただける体制を整えている。入居当初は特に、細やかな声かけや関わりで不安を軽減させている。他入居者との交流を後押ししたり、家族との連絡を緊密にしている。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者と家族の思いが異なることもあるが、入居以前のそれぞれの思いや葛藤を受け止め、入居者に寄り添いながらも、家族との信頼関係を築けるよう心を砕いている。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、家族が「その時」必要なことは何かを、本人や家族からいねいに聞き取るほか、生活歴や関係者からの情報をもとに、今できる最善の生活を実現できるよう支援している。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護しているという気持ちで接するのではなく、入居者とともに暮らしているという気持ちで、家事全般を一緒に行っている。料理や昔の生活の知恵、家事について入居者から学ぶことが多い。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時にはケース記録をお読みいただき、口頭でさらに詳細に近況報告をしている。本人と家族の絆を大切にしながら、相談や面談を重ねている。入居当初には本人が安心できるよう家族が頻りに面会に来てくださるなど、共に本人を支える関係を築いている。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、友人、知人の面会や電話がある。季節の便り、年賀状などのやり取りも途切れないよう支援しており、入居前の関係が継続できている。		
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を把握し食卓の席などに配慮し、よい関係づくりを支援し、気持ちの安定を図る。様々な場面で関わりあえるよう、スタッフが自然に介入して、家族のような暖かな雰囲気づくりに努めている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先に、入居者の状態やケアの取り組み状況などを詳細に提供している。退居後も、家族に了解を得てケアマネが転居先を訪問し、本人が安心して暮らせるよう、関係者との連携を継続している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に、これまでの生活歴や暮らし方の希望、習慣、好みなど、家族や本人から詳細に情報収集する。入居後は、本人の言動から情報収集し、思いをくみ取るほか、家族にも随時情報を提供いただいている。		
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の暮らし方や生活環境、サービス利用に至る経緯などについて、入居者、家族、関係者から詳細に情報収集している。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者の生活リズム、生活歴など把握した上で、日々の観察を怠らず、センター方式を活用して、「できること」「できないこと」など現状の把握に努めている。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当スタッフのアセスメントやモニタリングで現状を確認し、会議で意見を出し合っている。気付いたことは都度カンファレンスで意見を交換し、介護計画やケアの見直しをしている。		
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の1日の様子や発言、スタッフが気づいたこと毎日記録し、全スタッフが毎朝カンファレンスで情報を共有し、今後のケアについてチームで統一した方向性を持ち、ケアに活かしている。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節の行事を実施して季節感を感じていただいたり、入居者や家族の状況に合わせ、買い物や外食などニーズに応じた個別対応をしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを受け入れている。近隣のスーパーや美容院の利用、地域包括の協力を得て、地域の高齢者サークルの方との交流を通して、豊かで楽しみのある暮らしを支援し、地域に根差したホームづくりに努めている。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携する総合病院、歯科、整形の往診を、本人や家族の希望に応じて利用できる。認知症専門医のいる医療機関との連携を緊密にし、安心して適切な治療を受けていただけるよう支援している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は配置していないが、バイタル測定し、表情、体調の観察を記録している。スタッフは介護に最低限必要な医療の知識を持つよう努めている。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の体調や症状を詳しく病院に提供し、関係者との連絡を密に行い、本人、家族の意向に配慮しながら、早期に退院できるよう、日頃から医療機関との連携強化に力を注いでいる。		
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予想される場合、早い段階からスタッフ、家族、入居者間で対応策を話し合い、ホームがどこまで支援できるかを明確にした上で、家族に説明し、希望を聞いて、必要に応じて他施設を紹介するなどの支援している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に社内研修を実施するほか、応急処置や緊急対応のマニュアルで、スタッフが個別に学習できるようにしている。緊急時のスタッフの連携については、さらに実践力を付けたい。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力を得て、年2回避難訓練を実施し、近隣住民の方にも参加いただいている。今後もあらゆる状況に迅速に対応できるよう体制を整えたい。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭のように入居者全員で過ごす時間と空間を確保しながらも、個人の尊厳とプライバシーを守り、一人ひとりの状態に合わせた対応をつねに心がけている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	目線を合わせ、思いやりを持った態度で声かけをし、話しやすい環境、雰囲気づくりを心がけている。表出ができていない方に対しては、動作や表情でくみ取るようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活のリズムを把握し、声かけに対する反応や気持ちを推察したり、小さな変化を見逃さず微妙な思いに添って、本人が心地よく過ごせるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温などに配慮しながら、その人らしい身だしなみや、好きな服、ネックレス等でおしゃれを楽しんだり、いつも同じ洋服を着続けることのないよう声かけしている。洋服を自分で選びたい方には、買い物外出付き添いの支援をしている。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話や笑いを交えた楽しい雰囲気づくりを心がけている。季節感のある献立や彩りに気を配り、入居者が昔から馴染みのある食事を提供している。下ごしらえや片付けができる方はスタッフと一緒にやっている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面、食事量、水分摂取量などを毎日記録している。入居者の体調に配慮しながら、塩分を控えた栄養バランスのよい食事を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各入居者の力に合わせた口腔ケアを支援している。義歯の方には夜間の消毒を行っている。歯科往診もあり、清潔保持に努めている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗の自覚がないため、紙パンツを使用し清潔保持に努めているが、本人の尿意を大切に、訴えがある度にトイレ誘導し、付き添い、自立に向けた支援をしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含むバランスの取れた食事を提供し、毎日欠かさず運動を実施している。服薬のある入居者の排便のリズムをつかみ、本人が快適に過ごせるよう服薬調整を行っている。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず、すんなり入れるようタイミングを見計らって、気持ちよく入浴できるよう配慮している。入浴中は背中を流しながら思いを聞いたり昔話などの会話を楽しんでもらっている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の習慣や状態を観察し、睡眠のリズムを崩さないよう注意している。入眠前には、スタッフとの会話でリラックスしてもらったり、入居者に応じた対応をし、安眠や休息の確保を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用を個別にファイリングし、把握している。服薬時のチェック体制を整備しており、変薬時には観察記録をつけて体調の変化に対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の得意なこと、好きなこと、心地よく過ごせることなどを把握し、自主性や意欲を引き出して、笑顔と張り合いのある生活が送れるよう支援している。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は、ほぼ毎日出かけている。定期的には、喫茶外出、外食、買い物などの外出の機会を設けている。月に1度程度、個人の希望による遠出外出を実施するほか、家族との外出、外食などもしてもらっている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる入居者には、一定の金額を所持していただき、買い物などの外出時、自身で支払いをしていただいている。入居者の力に合わせ、預かり金から支払う場合もある。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得て、電話をかけたり手紙を出したりできるようスタッフが取り継いだり、見守りするなど、入居者に応じた関係の維持を支援をしている。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、キッチン、洗面所、トイレなどを清潔に保ち、観葉植物や季節の花を飾ったり、写真やレクリエーションで作成した作品などを展示している。くつろげるようBGMを流したり、リビングから見える庭には季節の花を植え、温かみのある心地よい環境づくりをしている。		
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、少人数でくつろげるソファやゆったりした椅子などを配置している。テレビや新聞、読み物などを置き、思い思いの過ごし方ができるよう配慮している。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使用していた馴染みのある小物や家具、写真を置いて落ち着いた空間をつくっている。レクリエーションで作成した手作りの作品などを飾ることで、ぬくもりが感じられ、気持ちよく過ごせるように工夫している。		
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で、意欲を維持、引き出す工夫をしながら、一人ひとりのできることを活かしつつも安全面に考慮し、入居者に応じた支援をしている。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容